



TITLE:

京大広報 No. 357

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 357. 京大広報 1988, 357: 529-536

ISSUE DATE:

1988-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209322>

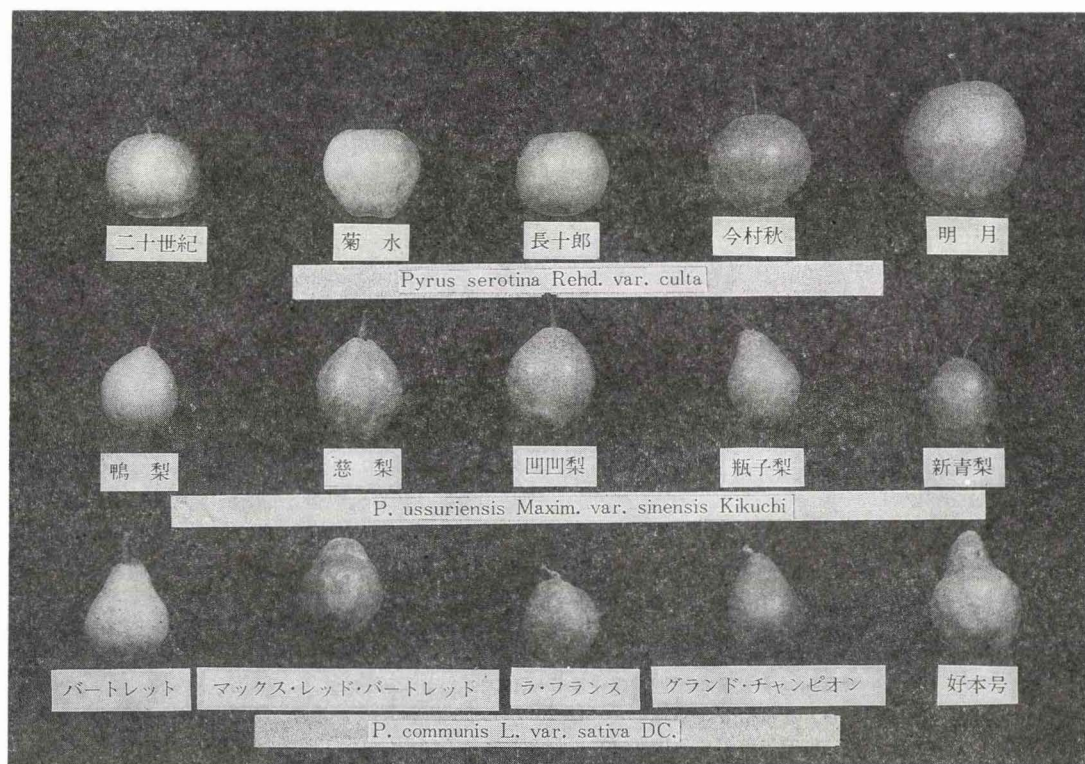
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

# 京大広報

No. 357

京都大学広報委員会



世界における栽培ナシの三大種（上段から日本ナシ，チュウゴクナシ，洋ナシ）

—関連記事本文530ページ—

## 目 次

西島総長，イタリア共和国訪問…………… 530

### <紹介>

農学部附属農場…………… 530

### <保健コーナー>

学生の職業意識と就職不安…………… 532

計 報…………… 533

### <資料>

昭和62年度歳入・歳出決算額及び

予備的経費配分実績…………… 533

### <随想>

近 況 名誉教授 渡邊 實…………… 535

昭和63年度文学部博物館

企画展<秋季公開展示>の開催…………… 536

## ＜大学の動き＞

## 西島総長、イタリア共和国訪問

西島安則総長は、9月14日からイタリア共和国における高等教育・研究機関の調査並びに学術交流に関する意見交換のため、同国を訪れ、9月24日帰国した。

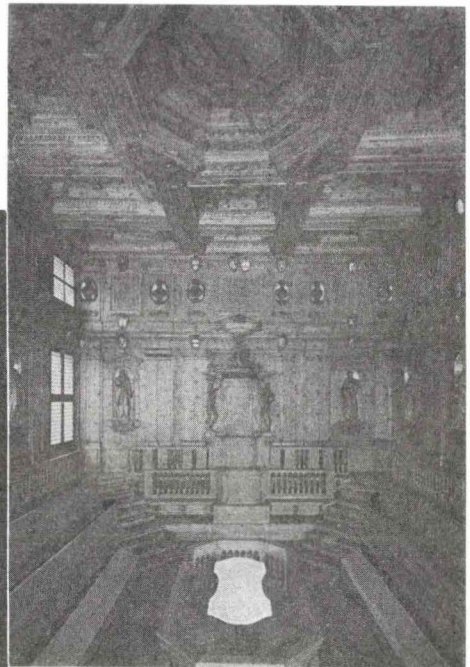
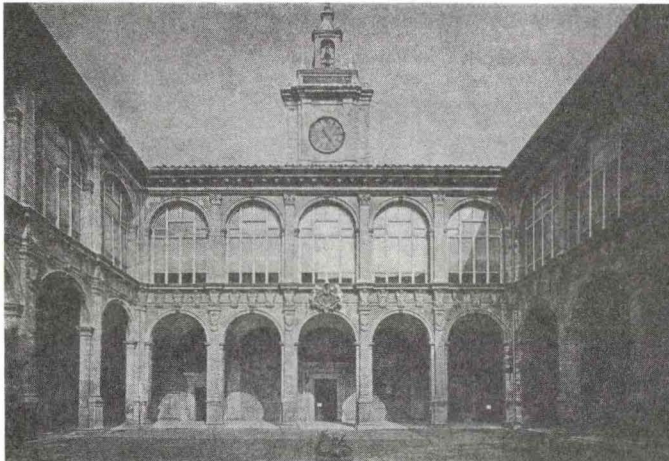
今回の主な訪問先は、ボローニャ大学 (Università di Bologna)、シエナ大学 (Università di Siena) であり、各訪問先において大学の将来構想、学術国際交流の実情等について意見交換を行った。

なお、ローマではイタリア共和国科学研究担当国務大臣 Antonio Ruberti 氏と日本・イタリア

両国間の学術交流推進の方策等について協議し、ボローニャ大学では同大学創立 900 周年記念式典に出席した。

一方、ペネチアでは国際大学連盟 (International Association of Universities) 主催による「ユネスコ将来政策のための大学長会議」に参加し、各国代表者と意見交換を行った。

今回の訪問には、笹井宏益庶務課長 (当時) が同行した。



ボローニャ大学が16世紀の中頃に総合大学として統合されたときの中心となった Archiginnasio Palace の中庭 (左)、この2階には17世紀の解剖学の講堂 (右) が保存されている。

## ＜紹介＞

## 農学部附属農場

農学部附属農場は、農業の現状と未来を展望した農学研究、すなわち農学における基礎理論の栽培技術への応用、並びに栽培・飼育の現場に認められる新たな諸問題を摘出して、その基礎的な解明を行うことを目的とし、創設以来それらに基

づく学部学生の実習教育を一貫して遂行してきた。古くからの農学研究者の中で附属農場を揺籃の地として研究生活に入った卒業生は極めて多数にのぼる。さらに、農学研究と教育に必要な材料の栽培管理及び供給が農場の重要な目的であることは言うまでもない。

農場は本場 (高槻市八丁畷町)、古曽部温室部 (同市古曽部町) 及び京都農場 (北部構内) からなっているが、それぞれにおいて行われている研

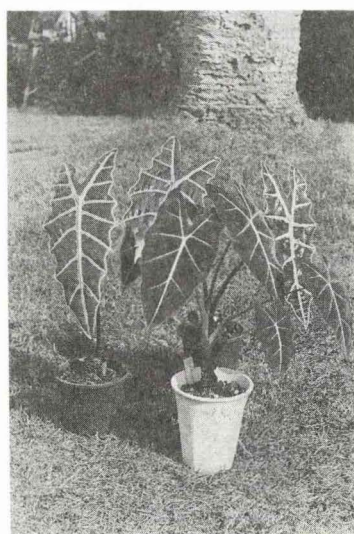
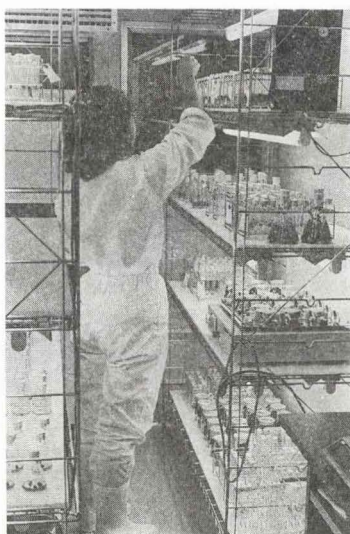
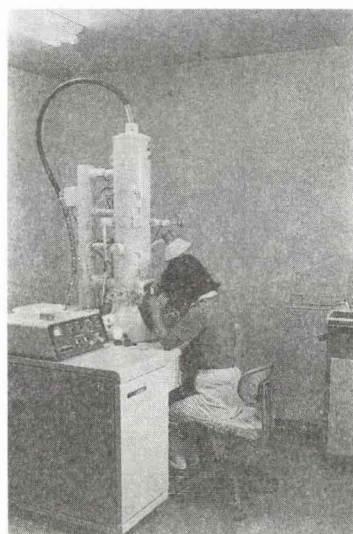
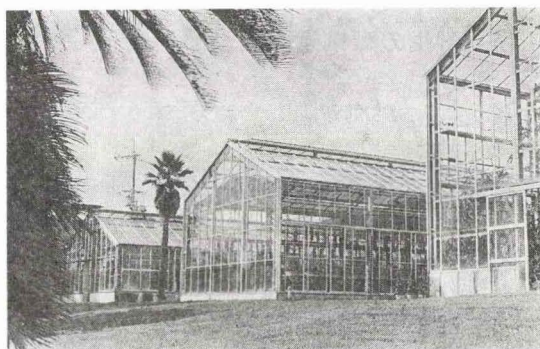
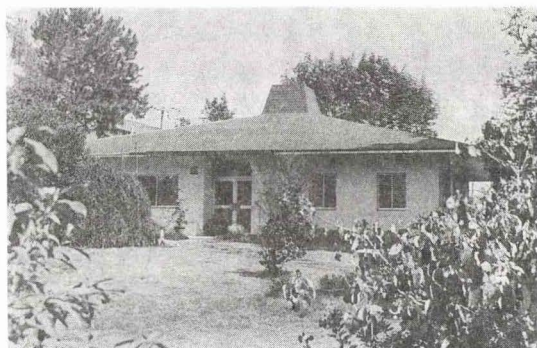


究，教育活動の二，三を紹介する。

古曽部温室部は、本場から1.5km北西に位置し、土地高燥で南に傾斜し、かつ北側が小丘に囲まれた絶好の園芸場である。ここでは温室のみならず敷地全域の活動が戦前、戦後を通じてわが国の園芸研究を支え、早くから熱帯、亜熱帯資源植物の蒐集育成と研究が行われてきた。近年、植物の細胞、組織、器官を無菌的に培養して独立植物に育成する組織培養法に関する研究の進展は目覚ましい。とりわけ、茎頂培養法は、ウイルス無菌株を育成するために開発された手段であるが、それと同時に繁殖の有効な手段としてその重要性がますます認識されつつある。しかし、農業の実際の場合では花卉（カーネーション、ラン）や果樹（ブドウ、リンゴ台木）などの一部において、組織培養法による無菌苗生産が実用化されているが、これらは多くの基礎研究のうちの一部にすぎず、

ほとんどの研究成果は培養器内における実験段階にとどまっていた、実際栽培における利用方法やその経済性、増殖効率などについて具体的な検討はなされていなかった。このための問題点を解明し、実用化をはかるための組織培養種苗生産システムの研究を1986年から行っている。

本場水田部において、1976年乾用直播栽培されていた水稻うるち品種“日本晴”8万株の中からもちと見られる1株を見いだした。1977年以降、上記株より採種して栽培したところ、出穂日、稈長、穂長、脱粒性などに分離が認められたので、長穂個体の選抜をくり返した。1982年に、葉が直立し、葉色が刈取直前まで保たれる特徴があり、稈が太いなど優れた特性をもち、かつ出穂日、稈長など主要な農業形質についてはほぼ固定した系統が得られたので、これを“KUT もち1号”と仮称し、現在当農場を中心として栽培を行い特性評



古曽部温室部における組織培養種苗生産システム

価を実施中である。

果樹部においても、未来の果樹としての特性を考慮した品種改良を試みている。農場が開設された昭和初期に栽植されたナシを始めとする果樹は今も沢山の果実を着けており、特に、故菊池秋雄名誉教授によって育種されたナシ品種、“菊水”、“八雲”は近年人気を博している“幸水”、“豊水”“新水”など新品種の交配親にもなって遺伝資源的にも注目されている。日本ナシ、チュウゴクナシ、洋ナシなどを用いた交配の中で、前記“菊水”とチュウゴクナシ“紅梨”との交配では特異的な紅色の発現に関する遺伝学的研究及び新品種の育成を行っている。

京都農場は、学部各講座に不可欠な実験圃場としての役割を果たしている。故並河 功名誉教授によって始められたカキ品種の蒐集栽培は、今日では200品種を越え、貴重な遺伝資源となっているほか、それぞれの品種を用いたアイソザイムによるカキ品種の分類、脱渋現象の解明など特色ある研究を行っている。

日本農業が曲り角に直面し、未来への展望確立が緊急の課題として求められているとき、農学理論の創造と実践の場としての農場の責務が今日ほど重大な時期はないであろう。

(農学部附属農場)

#### 保健コーナー

### 学生の職業意識と就職不安

学生相談には大勢の学生がやって来る。様々な問題・課題を抱え悪戦苦闘しているが、放置して安穩としているよりは望ましい。そして、何等かの形で将来像や職業選択などに関心や不安を示す。彼らのプリズムを通して、学生の職業意識や就職活動を述べてみる。

まず、例年のあやふやな就職協定にもかかわらず、圧倒的多数の学生はいくつかの「内定」を取り、選択して就職し、それまでの生活態度をガラリと変えて勤勉な日々へ入っていく。若干の就職情報誌やマニュアル本を手にし、しっかりとリクルートファッションに身を包み、早すぎず遅すぎずに協定を破り、過度にならない売り込みをする。さらには会社のはしごをして支給旅費を浮かし、連日食事にあずかる。ゲーム感覚の変り身の早さは軽やかでとまどいがない。

一方、例年正式の内定の直前になって後悔した人がある。かけ持ちしていると可能性は複数に見え、決めるとただ一つしか残らない。さあ、この判断は正しいか、これで人生は決定か。もちろん、意図的、半意図的な留年もどっさり出る。就職状況がよいとさらに増える。ギリギリになって単位を落とし卒業延期にして内定会社を断る者も

ある。悲惨な例では配属部門への不安が自殺の誘因の一つとなった者さえもいた。

たかが就職、されど就職なのである。たかが就職と考えれば選択決定も気楽である。しかし、この「たかが」を乱用すると、たかが結婚、たかが人生、たかが死……となり、全てが軽くなる。時代は少しその方向に動いているようだが、「軽薄短小」は無気力に陥りやすい。どこかで「されど」を入れないと存在感覚があやしくなる。就職も人生の流れを左右するものだから、流れのままもよいが、こだわるのもまた当然である。

こだわりの一つは適職神話である。「絶対有利な、一番確実な職に就きたい」、「自分の適性に本当に合った職を知りたい」。流行の推移、産業構造の変換、経済危機、食糧危機、政変、核戦争、大地震、天変地異、大予言……。能力テスト、心理テスト、適性診断、コンピューター判断、占い、人気企業ランキング、企業偏差値ランク…。流行に乗って金融へいく者もあれば、諸行無常と避ける者もいる。データの読みも多様である。

「人生を最も意味あるものとするための職業選択」なのだから必死になるのも正しい。しかし、企業情報をどんなに調べようと、未来予測をどれ程研究しても、「深層心理学」に没頭したところで、不確実さは残る。どれだけの不確実さを呑み込むか、喉ごしのよくなるやり方はあるか。おまけに、就職後の配属はあてにならないし、「やっ



てみないとわからない」。これではどうにも決め難い。たいていの人が決めているのが奇跡でさえある。

発想の転換の要点は、「仕事」にはそんなに大差はない、あちこち回って「体」で決める、決断は不確実を越えての意志である、そして、「何をするか」よりは、「どのようにするか」にはるかに意味がある、などであろう。

就職不安、拒否感を持つ人達も多い。「拘束された歯車の如き就職生活はいや」と。多少規則正しかったりルーズだったりしても、見えやすい歯車と見えにくい歯車にすぎない。狂者も病者も死者さえも、全ては地球規模の重畳する共同体の中に超複雑に組み込まれている。自暴自棄も絶望も、順応もしないとすれば何が可能か。個々に鋭く問われているのだから、せっかくの不安や拒否感情にじっくり取り組みたい。少なくとも、それぞれの社会組織や共同体の規範を全く現状肯定したままで、「もっと大人になりなさい」と安易に語ってはならない。

大物の大人は「最近の若者は」と嘆いてみせるが、その「大人像」の如何に薄汚なく貧相なことか。また、不安を回避すべく既成の「大人像」へと大急ぎの若者も少なくない。リクルートファッションは順応者の制服である、無難ではあるが。制服のかげで個性的な何かをするか。就職協定も二重基準、多重基準の世間を渡る能力を見るために、「適切に」破るべくあるらしい。

さて、新しい「大人像」を求めて、そんなものが用意されている筈もないので、動き出す人もいる。マイナー志向者、早期離転職者、フリーアルバイターなどである。ぐずぐずしているだけのこともかもしれないが。彼らはどこに存在感覚・生き甲斐を追っていくのだろうか。定職に就かない人はこれまでも連綿と続いているが、意識的な試みはまだ始まったばかりである。

このように学生の職業意識は様々であるが、真剣な意欲が実を結び、それぞれの人生がより豊かなものとなることを念じている。

(保健管理センター 青木健次)

## 計 報

藤本 哲生（庶務部国際交流課専門職員）

9月8日逝去、45歳。昭和53年附属図書館閲覧課勤

務、55年化学研究所総務課図書掛長に昇任、農学部整理掛長を経て、62年庶務部国際交流課専門職員に配置換。

## <資 料>

### 昭和62年度歳入・歳出決算額及び予備的経費配分実績

#### 昭和62年度歳入・歳出決算額

(文部省所管国立学校特別会計)

区 分	昭和62年度決算額	昭和61年度決算額	差引増△減額	増△減率
	円	円	円	%
歳 入				
附 属 病 院 収 入	13,603,152,324	12,962,601,164	640,551,160	4.94
授 業 料 及 入 学 検 定 料	4,786,743,800	4,507,646,050	279,097,750	6.19
学 校 財 産 処 分 収 入	18,000,000	124,000,000	△ 106,000,000	△ 85.48
雑 収 入	2,630,132,970	2,298,104,554	332,028,416	14.45
合 計	21,038,029,094	19,892,351,768	1,145,677,326	5.76

区 分	昭和62年度決算額	昭和61年度決算額	差引増△減額	増△減率
	円	円	円	%
歳 出				
国 立 学 校	38,691,969,398	37,165,405,604	1,526,563,794	4.11
人 件 費	25,371,764,931	24,612,710,745	759,054,186	3.08
物 件 費	13,320,204,467	12,552,694,859	767,509,608	6.11
大 学 附 属 病 院	16,153,274,794	15,599,750,225	553,524,569	3.55
人 件 費	6,722,133,814	6,603,531,251	118,602,563	1.80
物 件 費	9,431,140,980	8,996,218,974	434,922,006	4.83
研 究 所	11,094,904,789	10,569,689,510	525,215,279	4.97
人 件 費	6,537,477,462	6,404,608,369	132,869,093	2.07
物 件 費	4,557,427,327	4,165,081,141	392,346,186	9.42
施 設 整 備 費				
物 件 費	10,959,792,000	6,756,486,000	4,203,306,000	62.21
合 計	76,899,940,981	70,091,331,339	6,808,609,642	9.71
人 件 費	38,631,376,207	37,620,850,365	1,010,525,842	2.69
物 件 費	38,268,564,774	32,470,480,974	5,798,083,800	17.86

## 昭和62年度 予備の経費配分実績

(職員旅費)

区 分	金 額	区 分	金 額
	千円		千円
1. 予 算 額	19,358	(2) 特 別 事 業 旅 費	1,839
2. 部局長会議決定による配分額	19,358	(3) 入 学 試 験 経 費	1,435
(1) 会 議 出 席 旅 費	0	(4) 各 部 局 へ の 補 足	16,084

(校 費)

区 分	金 額	区 分	金 額
	千円		千円
1. 予 算 額	253,415	課 外 活 動 施 設 等 整 備	7,400
2. 部局長会議決定による配分額	253,415	課 外 活 動 費	1,422
(1) 継 年 的 補 足 経 費	41,005	学 生 懇 話 室 紀 要 刊 行 費	500
(2) 教 育 研 究 経 費	45,084	厚 生 補 導 設 備 整 備	2,000
教育研究用図書整備	1,695	(4) 入 学 試 験 経 費	18,166
教育研究用設備費	6,500	(5) 本 部 運 営 費	15,254
教育研究用事業費	36,889	(6) 管 理 運 営 費	122,484
(3) 厚 生 補 導 費	11,422	庁 舎 等 管 理 運 営 費	25,694
学 生 寮 整 備	100	施 設 等 整 備	96,790





## 昭和 63 年 度 文 学 部 博 物 館

## 企画展＜秋季公開展示＞の開催

本学文学部博物館では、下記のとおり企画展＜秋季公開展示＞「室町・戦国時代の武士」を開催いたします。本学の教職員・学生は無料です（身分証明書を呈示）。

## 記

期 間 10月25日（火）～12月3日（土）

（ただし、一般公開に先立ち、本学教職員・学生には24日（月）に特別に公開しますので、多数ご観覧ください。）

開館時間 月曜日～金曜日 9：30～16：30

土曜日 9：30～12：00（日祝日は休館）

場 所 博物館 企画・総合展示室（1F・2F）

展示内容 今回の企画展示は、「室町・戦国時代の武士」をテーマとしました。ここでは、南北朝内乱期から、戦国の余風の残る17世紀前半までの武士たちについて、そのイメージを豊にさせていただくための素材を提供しております。地方武士の伊達景宗が恩賞を得るために何度も何度もみずからの戦功を書き立てた軍忠状、これをうけて足利尊氏が恩賞をさずけた下文、あるいは尊氏の軍勢催促状（写真）など、当時の武士たちの思想や生活倫理を示す古文書の数々が展示されます。

この他、室町幕府の管領であった細川氏が建てた地蔵院の古文書や、豊臣大名中川家に残る戦国の軍法のありさまを物語る古文書、

あるいは天下人秀吉の身分法令など、多数の古文書を展示しております。また、「北アジア・中央アジア諸民族の文字」、「原敬と明治の元勳たち」、「江戸から東京へー地図展一」のテーマで、小展示も用意しております。1階総合展示室では考古資料常設展示をご覧いただけます。

（文学部博物館）

